

四月十二日

朝、屋上に上る。クワをふるって、生ゴミを埋める。チューリップが一輪咲き、緑が少しづつ面積を増やしている。花の名前、草木の名前がどうしても覚えられない。もう少しディテールを書けたら楽しいだろうに、残念だ。十一時研究室。明日から隠れ家に引きこもるので、二十三時迄、できる限りの打ち合わせを続ける。一つ一つの物件に関して、もっと綿密にディテールまで決め込みたいが、時間が足りない。ホセ・武田君が院入学を前にメキシコに帰ることになったので、お別れの話をする。この青年とは面白い縁になると考えていたのだが、恐らくはもう二度と会う事はないだろう。花に嵐の例えもあるさ、さよならだけが人生だと井伏鱒二は漢詩を、いかにも日本的な芸の中に訳してしまっただが、ホセには、痛切に生きて欲しいとだけ言い残してサヨナラだ。彼がもしも建築を深く好きになるチャンスがあれば、又、会う事があるかも知れぬ。

四月十三日

ノーム・チョムスキーの本を読む。まだ銅版画は何を描こうというテーマを思い付く事ができない。ほとんど一日、読書とすい眠。二十一時眠りに入る。

四月十四日

午前中チョムスキー読了。私が不定期に続けている「住まい塾」を「自分たちで家を考える学校」に名称変更することを思い付く。あれはアト数回現状のようにグズグズやり続けて、秋からもう少しキチンとしたプログラムを持ったコースを併設する事にしたい。講談社のDIY本の準備研究がその土台になれば良いのだが、研究室の担当者達にそれをまず伝える必要がある。DIY本の五名に増えた担当者達は先ず何よりも自分達の中に巣喰っている浅い良識、薄べったい消費者感覚を脱ぎ捨てるトレーニングを課さなければいけない。想像力の貧困は他者への思い、つまり共同作業の芽をつんでしまふ。加藤は今の状態を早々に抜けないとどうにもならない。しかも抜け出るのに一番必要なのは自由への、ほんの少しばかりの希求なのだという実に困難な事でもあるというのを危機感を持って自覚してもらいたい。今のまんまでは君はただの平板極まるお真面目で不自由な俗人であるに過ぎない。安藤も自分の感性の力チカチの不自由さを直視しないと自由にはなれない。感性が俗っぽいのではない、まさに絵に描いた如くに不自由なのだ。自己否定する覚悟を持つしかないだろう。しかももう瀬戸際だろう。西岡は二人と比較すればまだ柔らかい自分を持つているようだから、ここしばらくは今のママで良いが、次々に新しいハードルが立つから御用心。敢えて学生の年齢ではない三人の女性に感じている事を申し上げたが、これはWebで公表しても差し支えない、ある意味では読者諸賢にも、のぞき見以上の役に立つものであると考えると、そうしている。丹羽君に、編集人の丹羽君にも、この際申し上げておく。君は、世に言う重度の障害者であることは言うまでもない。その君にWebの編集・実務作業一切を任せている事に僕はある種の誇りを持ってきた。それはマイノリティーに対するヒューマニティーなんて言う

持たなければいけないが、甘く俗っぽいレベルではないと明快に言えるところからだ。コンピュータのキーボードを片手でゆっくりに操作できる他は、君の神経は完全に麻痺している。足腰も動きようがない。それ故に、僕は君のWeb編集に希望を託した。君の健全な頭脳はコンピュータと連絡して、我々、常人とは異なる世界を拓くのではないかと、君の友人の千村君が、我々のワーケーションでかつて言明したように君の頭脳（意識）は身体と分離しているという、それこそ特権を持っている。確かにページも自分一人ではくれないから、新しい知識を得る事のスピードは困難であろう。意識と身体が分離している、という事を積極的にとらえようとしている僕の現実には、そうなってみなければ考えられぬ観念の中の思考だと、指摘されてもおかしくはない。しかし、僕は敢えて言うね。丹羽君、君はこのWebの編集において、君の才能を類いまれな状況に置かれて君の才能を生かしてはいない。我々常人とはハッキリ異なる、異人としての君を生かしてはいない。僕は少々、それを残念に今、思っている。君がどのようにこれから生きてゆくのか、僕は深く考えた事はない。むしろ、その現実を避けてきた。五体満足なスタッフや院生の将来はそれぞれの個人が切り拓いてゆくべきだという、僕の考えはハッキリしている。それ故、強い個人でないと僕のところでは成長し得ないのも知り抜いている。それに迷った羊みたいな人間が時々、僕の牧場には迷い込むけれど、それはそれで仕方ない事で、迷い続けようと、ダメになってつぶれようと、それは個々人の問題である。僕は考え、そのように処して来た。それ故、丹羽君、君の編集に対する感覚、方針、情熱その大方に対して、いささか不満を持っている事、その不満はスピードが遅いとかの、君の身体的問題に起因する事ではなく、君の頭脳（意識）に関する世界での

事なのだ。もう少しWeb全体の構成を明快にかつ混沌とさせてくれないか。イメージとしてはWeb全体が新聞状になる事。住まい塾を名称変更して、充実させる事、利根町百人スクールの活動も報告して欲しい事などを新しい軸にして混入させて欲しい。三好シユタークのボスニア便りも入れて欲しい。書き手の人材も発掘して欲しい。よく見渡してみれば書き手がいるかも知れない。試してみたらどうか。ただし、サークル的にはダメ。絶対にダメ。野放しにしていたら若いのは皆サークルに消費者感覚的感覚の中に埋没しているのだから、それから抜け出しそうなモノだけをピックアップしてくれたまえ。それこそが編集長の役割だよ。二週間で組み直すように。アイデアが出ただろう頃連絡します。